

2023年度 市立函館高等学校 シラバス

| 教科 | 科目 | 単位数 | 年次・コース | 教科担任 | | | |
|---|-------------------|---|---|---|---|----------|-------|
| 公民 | 現代社会 | 2 | 3年次 | 二瓶 賢一、村上 可教 | | | |
| 使用教科書 | 現代社会（東京書籍） | | 使用副教材 | 現代社会 要点サブノート | | | |
| 科目の目標 | | | | 道徳教育のねらい | | | |
| 人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自らの人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 | | | | 卒業後に実社会で生活していく上で必要な知識、教養を身につけさせ、政治面や経済面、あるいは国際関係などの面で人間としての在り方や生き方を考えていく。 | | | |
| 育てたい6つの力(資質・能力) | | | | | | | |
| 学習活動内容 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| | | 主体的学習力 | 基礎力 | 思考・分析力 | 発信・表現力 | 自他認知・協働力 | 計画実行力 |
| 1 | 第1部 わたしたちの生きる社会 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 2 | 第2部 現代の社会と人間 | | ○ | ○ | | | |
| 3 | 第1章 青年期と自己形成の課題 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 4 | 第2章 日本国憲法と民主政治 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 5 | 第3章 現代社会と法 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 6 | 第4章 現代の経済と国民福祉 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 7 | 第5章 国際社会と人類の課題 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 8 | 第3部 ともに生きる社会を目指して | ○ | ○ | ○ | | | |
| 9 | グループワーク | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 10 | 課題提出 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ◎ |
| 11 | 考査 | ○ | ◎ | ○ | | | ◎ |
| 評価の観点 | | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | |
| | | 現代社会の基本的問題に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。 | 現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。 | 現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。 | 現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。 | | |
| 評価の方法 | | 課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢全般において、意欲的に取り組んだかを評価する。 | 授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢、及び定期考査から、思考・判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。 | 定期考査や課題などにより、資料などを活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。 | 定期考査などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。 | | |

現代社会 授業計画

| 授 業 計 画 | | | | 実 施 状 況 | |
|-----------|------------------|--|--|---|------|
| 月 (時数) | 単元・考査等 (配当時数) | 学習のねらい | 学習内容 (配当時間) | 単元 実施 時数 | 実施反省 |
| 前 期 | 4月 | 第1部 わたしたちの生きる社会 (4) 1 地球環境問題 | ・地球環境問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づかせる。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識させる。とくにエネルギー問題にあつては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目させ、原子力や新エネルギーによる発電がどうあるべきか考察させる。 ・人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。 ・情報化社会における課題を踏まえたうえで、情報化社会に生きるためのモラルやルールについてどのような規制や法整備によって調整を行っていくべきか考えさせる。 | 1.地球環境問題(4) 2.資源・エネルギー問題 3.科学技術の発達と生命 4.情報化の進展と生活 | |
| | 5月 | 2資源・エネルギー問題 3科学技術の発達と生命 4情報化の進展と生活 | ・自己理解を進め、自己形成の課題を考察し、勤労観・職業観を含め、どのように社会参加を果たしていくのか、など自らの人間としての在り方生き方について考察する | 1.現代社会と青年(4) 2.青年期の発達課題 3.自己形成と社会のかかわり 4.進路と生きがいの創造 | |
| | 6月 | 第2部 現代の社会と人間 (10) 第1章 青年期と自己形成の課題 1 青年期の自己の形成 2 よりよく生きることを求めて | ・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。 ・自己理解を進め、自己形成の課題を考察し、勤労観・職業観を含め、どのように社会参加を果たしていくのか、など自らの人間としての在り方生き方について考察する | 1.哲学と人間 4.人間の尊厳 (7) 2.宗教と人間 5.人間性の回復を求めて 3.近代科学の考え方 6.日本の伝統思想の考え方 4.人間の尊厳 7.外来思想の受容と日本人の自覚 | |
| | 7月 | 第2章 日本国憲法と民主政治 (19) 1 民主政治とは (前期中間考査) | ・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。 ・議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解させるとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深めさせる。 ・民主政治のもとでは、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解させる。 ・法に関する基本的な考え方を身に付けさせる。 | 1.民主政治の成立 (3) 2.基本的人権の成立 3.世界の政治体制 | |
| | 8月 | 2 日本国憲法の基本原理 3 日本の政治機構 4 現代政治の特質と課題 | ・選挙のしくみと課題 (4) 2.政党と利益集団 3.世論と政治参加 | 1.日本国憲法と三つの原理 4.新しい人権と人権保障の広が 2.基本的人権の保障(1) 5.平和主義と安全保障(1) 3.基本的人権の保障(2) 6.平和主義と安全保障(2) (7) | |
| | 9月 | 第3章 現代社会と法 (前期期末考査) | ・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。 ・人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解させる。 ・国際法の意義について理解する。 ・国際連合の目的、平和と安全を維持する組織構成や取り組みを理解する。 ・第二次世界大戦以降の国際政治体制を理解し、その課題を考察する。 ・核軍拡競争の背景と核軍備管理と軍縮実現の方法を考察する。 ・人種・民族問題の背景と国際的な人権保障の現状を理解し、人権問題の解決について考察する ・貿易に関する基本的立場の違いを確認し、国際収支表、外国為替市場を理解する。 ・第二次世界大戦後の国際経済を概観し、理解する。 ・地域経済統合の目的やグローバル化する世界経済の現状を理解し、国際経済に与える影響や課題を考察する。 ・国際社会における貧困や格差について理解するとともに、先進国日本の国際社会で果たすべき役割について考察する。 | 1.国会と立法 3.裁判所と司法 (5) 2.内閣と行政 4.地方自治 | |
| | 10月 | 第4章 現代の経済と国民福祉 (19) 1 経済のしくみ | ・都市型・生活型公害や身近な環境汚染の事例をもとに、その解決には法整備だけではなく、個人や企業にも社会的な責任が課されていることに気づかせる。 ・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。 ・人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解させる。 ・国際法の意義について理解する。 ・国際連合の目的、平和と安全を維持する組織構成や取り組みを理解する。 ・第二次世界大戦以降の国際政治体制を理解し、その課題を考察する。 ・核軍拡競争の背景と核軍備管理と軍縮実現の方法を考察する。 ・人種・民族問題の背景と国際的な人権保障の現状を理解し、人権問題の解決について考察する ・貿易に関する基本的立場の違いを確認し、国際収支表、外国為替市場を理解する。 ・第二次世界大戦後の国際経済を概観し、理解する。 ・地域経済統合の目的やグローバル化する世界経済の現状を理解し、国際経済に与える影響や課題を考察する。 ・国際社会における貧困や格差について理解するとともに、先進国日本の国際社会で果たすべき役割について考察する。 | 1.経済社会の変容 5.金融のしくみと働き (8) 2.現代の企業 6.中央銀行の役割と金融の自由化 3.市場経済のしくみ 7.政府の役割と財政 4.国民所得と経済成長 | |
| | 11月 | 2 変化する日本経済 3豊かな生活の実現 | ・戦後復興と高度経済成長 (5) 2.産業構造の転換と国際経済環境の変化 3.バブル後の日本経済 4.中小企業と農業 | 1.戦後復興と高度経済成長 (5) 2.産業構造の転換と国際経済環境の変化 3.バブル後の日本経済 4.中小企業と農業 | |
| | 12月 | 第5章 国際社会と人類の課題 (18) 1 国際政治のしくみと動向 (後期中間考査) | ・戦後復興と高度経済成長 (5) 2.産業構造の転換と国際経済環境の変化 3.バブル後の日本経済 4.中小企業と農業 | 1.自立した消費者への道 4.社会保障の役割 (6) 2.労働者の権利 5.環境保全と循環型社会 3.現代の雇用・労働問題 | |
| 後 期 | 1月 | 2 国際経済のしくみと動向 3 国際社会の現状と課題 | 1.国際社会の特質 4.国際連合の役割と課題 (7) 2.国際紛争を避けるしくみ 5.冷戦とその後の世界 3.国際連合と安全保障 6.軍縮への取り組み | | |
| | 1月 | 第3部 ともに生きる社会をめざして | 1.貿易と国際分業 (5) 2.外国為替のしくみと国際収支 3.戦後国際経済の枠組みとその変化 4.対立と協調の時代 5.グローバル化する経済 | | |

